

決算書 (P 352～P 353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越清里星のふるさと館管理運営費		

○目標達成状況

- ・「楡池の隕石」と「はやぶさ2」を関連付けた館内展示やプラネタリウム番組の充実を図るなど、天文教育を学ぶ事業を提供した。
- ・入館者数は6,815人で、令和2年度に比べ2,541人の増となり、目標の5,250人を超えた。

【事業の成果】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度から延期となっていた楡池隕石100周年記念事業として、自主制作番組「宇宙からの訪問者」の上映や、JAXAの協力を得て「宇宙を感じる企画展」を開催することで、隕石落下の伝承を始め上越地域の天文教育の拠点にふさわしい学習機会を提供することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、入館者や事業参加者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を行うことができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・天文に関する学びのきっかけを提供するため、季節や暦に合わせた観望会などの自主事業や出前講座を実施する。
- ・園児向けのプラネタリウム企画のほか、小中学校等の要望に応え、理科の授業に対応したプラネタリウムの投影を行い、学習を目的とした利用促進に努める。

【執行残額について】

- 入札差金 21
 - ・使用料及び賃借料、事業用備品購入費ほか
- その他 403
 - ・会計年度任用職員報酬等人件費 23
 - ・費用弁償 134
 - ・光熱水費、通信運搬費ほか 246



宇宙を感じる企画展：宇宙服のレプリカ展示



児童工作体験：空力翼艇（ホバークラフト）の作製

(単位：千円)

決算書 (P352～P353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	ユートピアくびき管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
61,400	59,253				3,881 (使用料、財産収入、 譲収入)	55,372
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,147				2,147	

【目的】

多様な生涯学習活動の場を提供することにより、市民の文化・スポーツ・レクリエーション活動の振興を図り、魅力ある地域社会の形成に資するため、施設の維持管理を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 利用者数等

施設名	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
希望館	2,758	64,340	1,795	28,263	2,532	65,000	262,422
中央広場	22	12,603	19	504	33	13,000	3,765
駐車場等屋外 共有スペース	27	3,797	8	874	11	5,000	3,477
合計	2,807	80,740	1,822	29,641	2,576	83,000	269,664

※令和3年度の希望館利用者実績 262,422 人のうち 222,504 人は、5月から8月まで実施された新型コロナウイルスワクチン接種に来場された方の人数であり、通常の利用者数は 39,918 人(希望館・中央広場・駐車場等屋外共有スペース合計利用者数は 47,160 人)であった。

決算書 (P352～P353)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	ユートピアくびき管理運営費		

2 施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	3,227	2,113	2,411	3,620
	その他	9,711	306	388	261
	合計	12,938	2,419	2,799	3,881
②支出	施設維持管理費	77,462	60,891	61,400	59,253
	うち委託料	7,597	7,810	7,396	7,145
	その他	-	-	-	-
	合計	77,462	60,891	61,400	59,253
③公費投入額 (②-①)		64,524	58,472	58,601	55,372
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		799	1,973	706	205

3 主な修繕の内容

空調ファンコイル修繕 155、冷温水発生機ファンモーター修繕 132、外灯修繕 78

【事業の成果】

令和3年度は、新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場となったが、接種日程に配慮しながら予約の管理調整を行い、通常の利用も支障なく対応することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を行う必要がある。

【執行残額について】

○その他 2,147

- ・報酬、費用弁償等 1,467 (会計年度任用職員の勤務実績による)
- ・消耗品費、修繕費、委託料ほか 680

(単位：千円)

決算書 (P352～P353)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
17,678	17,132				1,082 (使用料、財産収入、 譲収入)	16,050
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	546			421	125	

【目的】

市民の教養と文化の向上及び生涯学習の振興を図り、魅力ある地域社会の形成に資するため、施設の維持管理運営を行う。

令和3年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 利用者数等

施設名	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
はーとぴあ中郷	424	12,849	281	7,168	325	12,000	8,597

2 施設管理における市の収支状況

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	430	453	695	1,027
	その他	153	2,124	110	55
	合計	583	2,577	805	1,082
②支出	施設維持管理費	15,099	17,381	17,678	17,132
	うち委託料	6,483	7,083	7,113	6,692
	その他	-	-	-	-
	合計	15,099	17,381	17,678	17,132
③公費投入額(②-①)	14,516	14,804	16,873	16,050	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)	1,130	2,065	1,406	1,867	

※令和3年度の使用料収入増加要因は、他地区の施設が新型コロナウイルスワクチンの接種会場となったことで、はーとぴあ中郷に利用先を変更する団体が増加したことによるもの

決算書 (P 352～P 353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

3 主な修繕等の内容

網戸張替修繕 220、量水器口径変更工事 111、レッスン室エアコン更新工事 330

【事業の成果】

コロナ禍での利用制限や活動自粛の影響はあったが、市民による自主的な活動、レクリエーション活動の場として、生涯学習や生涯スポーツ、イベント、集会等に利用されたほか、公民館事業を始め市の各種事業の会場として令和 2 年度を上回る利用があった。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。
- ・総合事務所だより等での施設の PR や公民館事業、イベントを通じ、地域住民の積極的な利用を促す必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 421
 - ・施設管理委託料（清掃業務、冷暖房設備保守管理ほか）
- その他 125
 - ・消耗品、修繕費ほか 45
 - ・光熱水費 40
 - ・使用料及び賃借料 40

(単位：千円)

決算書 (P352～P355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
21,652	20,703				1,049 (使用料、謝収)	19,654
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	949			190	759	

【目的】

地域における生涯学習及び生涯スポーツを推進し、生活文化の振興を図るため、地域生涯学習センターの管理運営を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

市民の生涯学習活動の場として、また、コミュニティ圏域の活動の拠点として維持管理を行い、年間 7,449 人が利用した。

○施設の管理実績

・地域生涯学習センター利用者数等

区名	施設名	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
		利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人) 計画 実績	
安塚区	中川	66	881	38	445	36	445	350
	伏野	34	665	18	175	19	175	225
	菱里	12	803	1	20	0	20	0
	船倉	7	135	3	33	1	33	29
	須川	47	248	44	262	50	262	317
	小計	166	2,732	104	935	106	935	921
大島区	大島	70	1,182	25	279	50	205	651
吉川区	吉川旭	78	1,140	34	317	23	300	176
	源	36	1,417	47	1,162	34	900	829
	小計	114	2,557	81	1,479	57	1,200	1,005
中郷区	片貝	46	1,467	45	443	18	2,000	411
清里区	楡池	39	1,194	36	560	41	560	780
名立区	下名立※	4	83	0	0	0	0	0
	不動	306	3,001	134	1,410	133	1,410	1,804
	小計	310	3,084	134	1,410	133	1,410	1,804
合計		745	12,216	425	5,106	405	6,310	5,572

※下名立地域生涯学習センターは令和2年度から休止しており、令和4年度をもって廃止する予定

決算書 (P352～P355)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

・片貝縄文資料館利用者数等

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人) 計画 実績
部屋利用	63	1,883	42	1,249	55	2,100 1,242
資料館		923		343		1,000 635
合計		2,806		1,592		3,100 1,877

・施設管理における市の収支状況

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	379	264	317	339
	その他	691	2,710	709	710
	合計	1,070	2,974	1,026	1,049
②支出	施設維持管理費	22,295	23,128	20,944	20,703
	うち委託料	4,923	6,628	5,521	5,658
	その他	-	-	-	-
	合計	22,295	23,128	20,944	20,703
③公費投入額(②-①)	21,225	20,154	19,918	19,654	
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)	1,413	3,009	2,117	2,638	

※片貝縄文資料館の利用者数等を算定に含む。

・各区施設の主な整備等内容

区名	施設整備等の内容(業務委託・修繕・工事)
安塚区	○機械警備(中川79)、貯水槽清掃(菱里26)、浄化槽維持管理(中川42、伏野136、菱里132、船倉53)、消防設備点検(中川63、伏野55、菱里129、船倉57、須川48)、施設管理(中川192、伏野153、船倉151、須川184)環境整備(中川、須川、船倉134)、屋根雪除雪(伏野297) ○サッシ修繕(須川23)給食室水栓修繕(菱里12)
大島区	○浄化槽清掃(159)、消防設備点検(52)、清掃(30)、除雪(187) ○体育館手洗及び多目的トイレ修繕(22)
吉川区	○消防設備点検(31)、草刈等(旭105)、浄化槽管理(源145)、立木伐採(旭193)
中郷区	○機械警備(100)、施設維持管理(337)、消防設備点検(429)、地下タンク定期点検(50)、熱風炉保守点検(275)、自家用電気工作物保安管理(125)、椅子式階段昇降機保安点検(40)、防火設備点検(148) ○量水器口径変更修繕(133)、誘導灯バッテリー交換修繕(11)
清里区	○水道滅菌機保守(88)、屋外整備(176)、貯水槽清掃等(50)、消防設備点検(87) ○揚水管修繕(58)、照明器具等修繕(28)、屋内消火設備修繕(253)、自動火災報知設備修繕(93)
名立区	○施設維持管理(不動270)、消防用設備保守点検(不動137)、草刈等(下名立48)、倒木伐採(下名立33)、除雪(不動403)、PCB含有調査(不動・下名立33) ○旧校舎北側南京板取替(不動91)、正面玄関上部コンクリート庇塗装(不動132)、屋外ピロティ消火器格納箱取替(不動26)、灯油タンクバルブ修繕(不動9)

決算書 (P 352～P 355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

【事業の成果】

- ・施設の機能を維持するための修繕や管理に努め、生涯学習及び生涯スポーツのほか、コミュニティ圏域における集会や会議、地域行事等の場を提供し、利用者が心豊かに教養を高め、健康の増進を図るなど、地域における生活文化の振興に寄与することができた。
- ・船倉地域生涯学習センター（安塚区）は、公の施設の適正配置計画に基づき、地域住民等の理解を得て令和3年度をもって廃止した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・生涯学習センターは、閉校した小学校を活用しており、建物の耐用年数の到来や老朽化が進行していることから、これらを踏まえながら、施設の管理運営を行っていく必要がある。
- ・施設の管理運営に当たっては、各地域における施設の利用実態を踏まえ、地域に根ざした活動の場がなくならないよう配慮した上で、利用する地域住民と施設の今後の在り方に係る協議を丁寧に重ねていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を行っていく必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 190
 - ・委託料、修繕料
- その他 759
 - ・報酬、共済費及び旅費 274
 - ・光熱水費ほか 439
 - ・使用料及び賃借料ほか 46

(単位：千円)

決算書 (P354～P355)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,850	1,850					1,850
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	-					

【目的】

大潟野外活動施設において、市民の余暇活動や青少年の健全育成を推進するため、施設の管理運営を行う。

令和3年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

<指定管理の状況>

導入開始年度	平成18年度
指定管理者名	大潟観光協会
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日

○施設の管理実績

・利用者数

(単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
			計画	実績
利用者数	13,893	2,107	8,000	2,815

決算書 (P354～P355)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			予 算	実 績	
①収入	-	-	-	-	
②支出	修繕料	148	205	-	-
	委託料	1,850	2,246	1,850	1,850
	新型コロナウイルス減収補填金※	-	23	-	-
	合 計	1,998	2,474	1,850	1,850
③公費投入額 (②-①)	1,998	2,474	1,850	1,850	
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位:円)	144	1,174	231	657	

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したものの

○指定管理者の収支状況等

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			計 画	実 績	
①収入	利用料金収入	91	-	79	65
	管理運営委託料	1,850	1,850	1,850	1,850
	新型コロナウイルス減収補填金※	-	23	-	-
②支出	1,974	1,873	1,929	1,564	
差 引 (①-②)	△33	0	0	351	

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したものの

【事業の成果】

利用者の安全・安心と施設の適切な維持管理のため、指定管理者による日常点検や簡易修繕などを行った結果、野外活動施設で事故は発生しなかった。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・野外活動施設における個人利用は、横ばい若しくは増加傾向で推移する一方で、イベントでの活用を含む団体利用は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用が伸びず目標を下回る結果となった。
- ・誰でも気軽に利用できる状態を維持するため、引き続きトリム遊具の日常的な点検等を行い、安全な利用環境の確保を図っていく必要がある。

(単位：千円)

決算書 (P354～P355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,946	1,853				277 (使用料、謝収)	1,576
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	93			22	71	

【目的】

集会、学習、レクリエーション活動などの多目的な活動の場を提供し、地域住民の生活文化の向上に寄与するため、施設の管理運営を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

1 利用者数等

施設名	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
七ヶ地区コミュニティセンター	355	3,967	294	2,600	348	3,900	3,007

2 施設管理における市の収支状況

区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予算	実績
①収入	使用料収入	250	213	268	249
	その他	10	10	9	28
	合計	260	223	277	277
②支出	施設維持管理費	804	743	1,946	1,853
	うち委託料	145	235	150	148
	その他	-	-	-	-
	合計	804	743	1,946	1,853
③公費投入額 (②-①)		544	520	1,669	1,576
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位：円)		137	200	428	524

3 主な修繕・工事の内容

集会室エアコン新設工事 1,297

決算書 (P354～P355)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

【事業の成果】

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、適切な施設管理を行うことで、集会、学習、レクリエーション活動などの多目的な活動の場を提供し、地域住民の生活文化の向上に寄与した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

利用者が安全・安心に施設を利用できるよう、利用実態と施設の機能に応じて計画的な修繕等を行い、適切な管理運営を継続する必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 22
 - ・工事請負費
- その他 71
 - ・報償費 8
 - ・光熱水費 35
 - ・修繕料ほか 28

(単位：千円)

決算書 (P354～P355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
77,910	76,287			800		75,487
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,623				1,623	

【目的】

上越地域における科学的な知識の普及や科学に親しむ習慣の形成に寄与するため、上越科学館の管理運営を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和3年度目標

- ・上越地域の科学教育の拠点施設として科学的な知識の普及や科学に親しむ習慣を形成し、科学的な理解力を育むよう質の高い事業及びサービスを提供する。
- ・年間利用者：51,000人

○実施内容、これまでの経過等

- ・指定管理の状況

制度導入年度	平成30年度
指定管理者名	新東産業株式会社
指定期間	平成30年4月1日から令和4年3月31日まで

○施設の管理実績

- ・利用者数

(単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
			計画	実績
利用者数	103,420	35,172	51,000	55,256

決算書 (P354～P355)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			予 算	実 績	
①収入	1,976	14,900	900	800	
②支出	修繕料	4,621	2,121	2,390	2,389
	委託料	64,704	65,362	73,167	71,546
	再算定による 増加額※1	-	-	-	6,458
	使用料及び賃借料	1,795	1,812	1,813	1,812
	新型コロナウイルス 減収補填金※	1,647	7,758	510	510
	その他施設維持管 理費	-	16,732	30	30
合 計	72,767	93,785	77,910	76,287	
③公費投入額 (②-①)	70,791	78,885	77,010	75,487	
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)	685	2,243	1,510	1,366	

※1 新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理施設について、
収支実績に基づき指定管理料を再算定し、増加した額

※2 新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協
定に基づいて減収分を補填したもの

○指定管理者の収支状況等

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
			計 画	実 績	
①収入	利用料金収入	22,532	8,211	24,808	13,756
	管理運営委託料	47,870	47,794	47,794	54,252
	再算定による 増加額※1	-	-	-	6,458
	新型コロナウイルス 減収補填金※2	1,647	7,758	-	510
	その他	3,351	1,907	3,094	4,141
②支出	78,484	69,350	75,696	74,474	
差引 (①-②)	△3,084	△3,680	0	△1,815	

※1 新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理施設について、
収支実績に基づき指定管理料を再算定し、増加した額

※2 新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協
定に基づいて減収分を補填したもの

○目標達成状況

- ・新型コロナウイルス感染症の影響下、対面型や飲食を伴うイベントの一部を中止したものの、
感染症対策を行いながら、当初に計画した事業をおおむね実施することができ、青少年の科学
に親しむ機会の提供や科学に対する理解力向上に寄与することができた。

決算書 (P354～P355)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

- ・夏期特別展「トリックアート2021」を始め、小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル（レプリカ）を展示した。また、例年実施している小学生対象の「科学たんけん隊」や高校生以上対象の「大人の実験教室」のほか、令和3年度からは中学生を対象とした「上越科学館科学部」をスタートし、年代的に切れ目のない事業を行うなど、多種多様な事業を展開した。

【事業の成果】

- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら各事業の実施の可否を適切に判断したほか、実施に当たっては、マスクや換気、3密を避けるなどの対策を行い、混乱なく事業を実施できた。
- ・イベントの中には、季節性や話題性から多数の申込みにより抽選となったものもあり、大勢の方から科学に関心を持ってもらうことができた。
- ・令和3年9月3日から9月16日まで、新型コロナウイルス感染症に関する県の特別警報発令により施設を臨時休館したが、年間利用者数は、前年度と比べ57%増の55,256人となった。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

利用者数が令和2年度に比べ増加したが、コロナ禍前の半分程度であることから、施設利用者及び事業参加者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を行うとともに、青少年が科学に一層親しみ楽しんでもらえるよう、事業や展示の充実に努めたい。

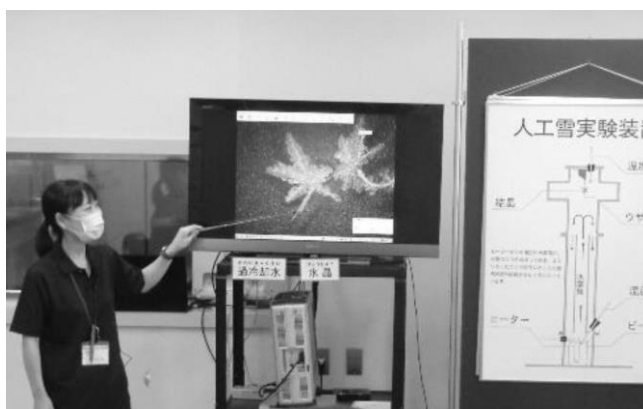
【執行残額について】

○その他 1,623

- ・指定管理委託料ほか



夏期特別展（トリックアート2021）



雪の結晶のふしぎサイエンスショー

(単位：千円)

決算書 (P356～P357)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
63,452	58,884				1,107 (財産収入、寄附金、 諸収入)	57,777
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,568		261		4,307	

【目的】

- ・「学びの輪が 人をはぐくみ 地域を支えるまち」を社会教育の目指す姿として定め、学びを通じた人づくり、地域づくりを図る。
- ・地域の拠点である公民館で身近に本を手取る機会を提供するとともに、公民館を利用する団体等が活用できるよう、図書資料の充実を図る。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

公民館事業 57,769

○令和3年度目標

実施内容の表に掲げる(1)学びのきっかけづくり、(2)未来を支える人づくり、(3)育ち合い、支え合う家庭環境づくり、(4)地域・現代課題に対応した地域づくりに該当する 203 事業（当初予算における計画事業数）の受講者延べ人数：9,313 人

○実施内容、これまでの経過等

＜事業の実施状況＞

・総事業数：253 事業

うち、中央公民館事業 ※市内の全地区の市民が対象（以下「中央」という。）4 事業
地区公民館事業 ※主に各地区の市民が対象（以下「地区」という。）249 事業
受講者延べ人数：15,673 人（中央：178 人、地区：15,495 人）

このうち、目標に掲げた4つの事業に該当するもの

事業数：191 事業（中央：4 事業、地区：187 事業）

受講者数：7,342 人（中央：178 人、地区：7,164 人）

(1)学びのきっかけづくり	目的	地域住民のニーズに応じた趣味や教養講座等から個人の学びの意欲を高めるとともに、交流の輪を広げる。
	事業分類	趣味・教養講座、体育・レクリエーション講座
	事業例	まち巡り講座、筆ペン教室、トランポボックス教室など 70 事業（中央：2 事業、地区：68 事業）
	受講者延べ人数	2,710 人（中央：55 人、地区：2,655 人）

決算書 (P356～P357)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

(2)未来を支える人づくり	目的	地域資源及び地域の人材を活用した体験活動や交流等を通じて、子どもたちの豊かな心をはぐくむ。
	事業分類	青少年教育活動事業、キッズフェスタ事業
	事業例	子ども体験教室、星空観察会、クラフト教室など 29 事業 (中央：1 事業、地区：28 事業)
	受講者延べ人数	960 人 (中央：14 人、地区：946 人)
(3)育ち合い、支え合う家庭環境づくり	目的	子どもが健やかに育つよう家庭の教育力向上を図るとともに、子どもの居場所づくりに努める。
	事業分類	家庭教育支援講座、親子活動講座、夏休み☆子どもつどいのひろば
	事業例	家庭教育支援講座、親子ふれあい書き初め大会、夏休み☆子どもつどいのひろばなど 39 事業 (中央：-事業、地区：39 事業)
	受講者延べ人数	1,552 人 (中央：-人、地区：1,552 人)
(4)地域・現代課題に対応した地域づくり	目的	各地域自治区における地域の課題や情報モラル等の現代課題を学習することにより、課題解決に向けた意識を高める。
	事業分類	ふるさと未来づくり事業、地域・現代課題講座、公民館のつどい
	事業例	地域づくり講座、防災講座、防犯出前講座など 53 事業 (中央：1 事業、地区：52 事業)
	受講者延べ人数	2,120 人 (中央：109 人、地区：2,011 人)
(5)行動する人への支援	目的	これから行動しようとする人や自主的に活動している団体、個人への活動支援を通じて、活動機会の提供及び活動の維持・継続を図る。
	事業分類	分館事業、ボランティア活動、団体、サークル及び地域活動への支援、生涯学習フェスティバルなど
	事業例	地域公民館事業、健康ウォーク、作品展など 62 事業 (中央：-事業、地区：62 事業)
	受講者延べ人数	8,331 人 (中央：-人、地区：8,331 人)

- ・各地区公民館では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に応じて、随時事業内容の変更や規模の縮小など柔軟に対応しながら、市民の安全と健康を第一に公民館事業を企画・運営した。
- ・令和3年度から新たに実施している「ふるさと未来づくり事業」では、地域の住民団体等と連携・協力しながら参加者が地域課題等について学ぶ機会を提供することにより、地域づくりに参画する人の輪が広がるよう取り組んでいる。
- ・参加対象を全市域としている中央公民館事業では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため上越・妙高・糸魚川3市による広域連携事業や不特定多数の接触が生じる大規模な事業は中止したが、「オーレン☆ナイト講座」や「ドイツ文化体験教室」では、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、大人から子どもまで広く学びの機会を提供した。

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

○目標達成状況

実施内容の表(1)から(4)までの事業では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業数及び受講者数は目標数値に届かなかったものの、可能な限り学びと交流の場の確保に努めた。



こども手話教室（直江津地区公民館）



スマホ教室（津有地区公民館）

公民館図書室事業 1,115

○実施内容、これまでの経過等

- ・地域の団体や公民館利用者等の意見や要望を踏まえた図書資料を提供した。
- ・上越市立高田図書館と連携し、図書の貸出・返却配送サービスや、図書資料の巡回配置、新刊図書情報の受信・提供を実施するとともに、公民館利用者や図書室利用者のリクエストに基づいた資料や、公民館事業に関連した資料、子どもの居場所づくりに対応した資料を揃えたほか、本の読み聞かせ会を開催するなど、読書活動の啓発に努めた。

【事業の成果】

- ・各地区で地域資源や人材をいかした特色ある事業や支援に取り組みながら、「学びの輪が 人をはぐくみ 地域を支えるまち」の実現に向けた人づくり、地域づくりを推進した。
- ・コロナ禍においても安心して集い、学び合い、交流を深められる場として、多彩な事業を企画・実施し、市民の学びの意欲や地域への関心を高め、人とのつながりを保つことができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・地域課題への対応を目的とした事業や地域活動への支援においては、地域のニーズや状況を的確に捉えるとともに、関わる住民や地域の団体・グループと十分に対話し、相互理解を深めた上で連携・協力していく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況に合わせ、事業実施の可否や手法、対策について引き続き検討していく必要がある。

【執行残額について】

○事業未実施 261

- ・負担金補助及び交付金

○その他 4,307

- ・報酬、共済費 1,542
- ・報償費 2,002
- ・旅費 189
- ・消耗品費 264
- ・保険料、私有車借上料ほか 310

(単位：千円)

決算書 (P356～P359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
173,549	164,557			17,100	8,561 (使用料、財産収入、 諸収入)	138,896
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
1,045	7,947			1,283	6,664	

【目的】

地域活動の活性化を促すため、公民館の適切な管理運営を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

地域の社会教育活動の拠点施設として、また、市民の生涯学習活動の場として維持管理を行い、年間約 16 万 7 千人が利用した。

○施設の管理実績

・利用者数等

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
新道地区公民館	582	4,374	394	2,820	462	2,735	3,188
金谷地区公民館	1,055	10,342	679	6,437	682	6,787	6,241
和田地区公民館	467	4,082	387	2,192	380	2,902	2,296
津有地区公民館	1,323	21,600	960	16,872	1,098	22,906	13,673
高士地区公民館	572	9,115	405	5,234	438	4,611	5,617
三郷地区公民館	328	4,766	242	2,542	297	3,282	2,699
諏訪地区公民館	344	5,164	248	2,563	307	2,333	2,959
有田地区公民館 (カルチャーセンター)	3,151	58,562	2,445	41,638	3,092	33,683	44,223
保倉地区公民館	111	2,533	90	1,657	139	2,012	1,635
北諏訪地区公民館	283	2,957	208	1,913	223	1,787	1,776
谷浜・桑取地区公民館	592	4,848	491	5,392	506	4,965	5,408
桑取分館	123	1,321	105	998	78	942	805
計	8,931	129,664	6,654	90,258	7,702	88,945	90,520
13 区計	7,457	95,894	5,525	59,579	5,815	56,570	77,023
合計	16,388	225,558	12,179	149,837	13,517	145,515	167,543

決算書 (P 356～P 359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

※高田地区公民館は、「上越市市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ」に併設のため除外
 ※直江津地区公民館は、「直江津学びの交流館」に併設のため除外
 ※春日地区公民館は、「上越市春日謙信交流館」に併設のため除外
 ※八千浦地区公民館は、「上越市八千浦交流施設はまぐみ」に併設のため除外

・13 区の内訳

区 分	令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	
						計 画	実 績
浦川原区	223	2,238	172	1,479	278	1,606	2,444
大島区	185	2,462	152	1,742	181	1,310	2,218
柿崎区	2,494	26,630	1,683	14,249	1,958	12,405	17,436
大潟区	641	7,163	460	4,537	452	4,621	5,016
頸城区	865	10,570	473	5,223	448	4,616	5,377
吉川区	524	11,766	393	7,159	360	8,149	6,790
板倉区	952	17,871	1,126	15,212	1,221	15,118	25,906
三和区	133	2,490	86	1,546	109	1,365	1,520
名立区	1,440	14,704	980	8,432	808	7,380	10,316
合 計	7,457	95,894	5,525	59,579	5,815	56,570	77,023

※各区は、分館利用件数及び利用者数を含む。

※安塚区、牧区、中郷区及び清里区の地区公民館は、他の生涯学習施設や総合事務所等に併設のため除外

※頸城区公民館は「ユートピアくびき希望館」に併設のため除外し、5つの分館分を記載

・施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	6,454	5,738	6,940	6,812
	その他	16,328	20,357	19,633	18,849
	合計	22,782	26,095	26,573	25,661
②支出	施設維持管理費	139,057	146,543	173,549	164,557
	うち委託料	31,063	35,495	36,538	36,014
	その他	-	-	-	-
	合計	139,057	146,543	173,549	164,557
③公費投入額 (②-①)		116,275	120,448	146,976	138,896
④利用者 1 人当たりの公費投入額 (単位：円)		515	804	1,010	829

決算書 (P 356～P 359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

【事業の成果】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための活動自粛により利用者数が減少すると見込んだが、感染症対策を講じた上で各種活動が行われたため計画より多くの利用があり、地域の拠点として生涯学習活動及び地域活動の場を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・地区公民館及び分館は、配置数や施設の利活用の状況、規模や建物の老朽化の度合い等が様々であることを踏まえながら、幅広い世代の地域住民が快適に利用できるよう、引き続き適切な管理運営を行っていく必要がある。
- ・施設の管理運営に当たっては、社会教育の推進事業や活動のほか、各地域における施設の利用実態を踏まえ、地域に根ざした活動の場がなくならないよう配慮した上で、利用する地域住民と施設の今後の在り方に係る協議を丁寧に重ねていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を行っていく必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 1,283
 - ・施設修繕料 1,110
 - ・委託料 173
- その他 6,664
 - ・報酬、共済費及び報償費ほか 2,934
 - ・燃料費、光熱水費 3,074
 - ・施設管理委託料、使用料及び賃借料ほか 656

(単位：千円)

決算書 (P358～P359)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
44,429	43,312				11,642 (使用料、財産収入、 譲収入)	31,670
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,117			724	393	

【目的】

多くの市民が集い、語らい、活動し、交流する場として、充実した活動を行うことができるよう、施設の適切な管理運営を行う。

令和3年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

市民交流や子育て支援の拠点施設として、また、市民団体の活動発表の場として、維持管理を行い、年間122,464人が利用した。

○施設の管理実績

・利用者数

(単位：人)

	ホール	ホール以外の貸館施設	こどもセンター	見学・視察	合計
令和元年度	30,691	59,683	78,120	25,694	194,188
令和2年度	11,740	31,642	45,241	11,577	100,200
令和3年度	18,766	38,550	48,966	16,182	122,464

・施設管理における市の収支状況

区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予算	実績
①収入	使用料収入	11,133	9,344	11,271	10,596
	その他	1,651	961	1,609	1,046
	合計	12,784	10,305	12,880	11,642
②支出	施設維持管理費	36,467	37,515	44,429	43,312
	うち委託料	21,642	23,614	28,185	26,175
	その他	-	-	-	-
	合計	36,467	37,515	44,429	43,312
③公費投入額(②-①)		23,683	27,210	31,549	31,670
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)		122	272	-	259

決算書 (P 358～P 359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ管理運営費		

【事業の成果】

市民団体との協働によるジョイント形式のコンサートのほか、オーレンプianoやオーレンプianoコンサート、施設利用団体による合同発表会などの自主事業により市民交流を創出するとともに、施設の維持管理を適切に行い、様々な市民団体の交流及び活動発表の場として活用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者の安全を確保し、地域交流や市民交流の拠点としての役割を継続的に果たしていくことが必要である。
- ・今後もより多くの方から利用していただくため、きめ細かな施設・設備の点検整備を行う必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 724
 - ・施設管理委託料、印刷製本費ほか
- その他 393
 - ・施設管理委託料ほか（事業実績による残）



クリスマスコンサート



オーレンプiano

(単位：千円)

決算書 (P358～P359)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
287	275					275
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	12				12	

【目的】

- ・市民が本とふれあう機会を設けるため、各種の取組を行うことにより、広く読書活動の普及を図る。また、上越市子ども読書活動推進計画（第3次）に基づき、子どもの自主的な読書活動を推進する。
- ・視覚に障害がある方や活字による読書が困難な方を対象とした資料を整備・提供し、広く図書館サービスの利用促進を図る。

令和3年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

読書活動推進事業 182

○令和3年度目標

読書活動推進事業への参加者数：6,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) こどもの読書週間及び読書週間事業の実施

- ・こどもの読書週間(4/23～5/12)に合わせて、新潟県立図書館が所蔵する復刻版絵本である「ベルリンコレクション」を展示した。
- ・読書週間(10/27～11/9)に合わせて、著名人が雑誌等で紹介した本や利用者と職員がおすすめする本の展示、リサイクルブック市、工作等を実施した。
- ・それぞれの期間に合わせて、司書が推奨する絵本や読み物のブックリストを作成し、図書館利用者や市内の小学校に配布するとともに、各館でリスト掲載本の展示を行った。

(2) 読書活動推進事業の実施

- ・読み聞かせボランティア団体と協力し、乳幼児から小学生までを対象とした絵本の読み聞かせ会を全館で定期的に実施した。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した「図書館こども祭」を各館で実施した。
- ・催し物の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、時期や内容を工夫して行った。

決算書 (P 358～P 359)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

(3) 学校及び公民館図書室との連携

- ・学校活動の補助として活用できる資料の貸出しや、学校へ出向いて本の紹介やおはなし会を行うことで、児童への読書活動支援を行った。また、コロナ禍での児童への支援として、放課後児童クラブへの特別貸出しを引き続き実施した。
- ・絵本やおはなしにちなんだ料理を給食献立に取り入れて、子どもたちに本に対する興味・関心を持ってもらうための取組である「おはなしランチ」を、市立幼稚園・保育園、小・中学校で実施した。
- ・新年度を迎える中・高校生に向けて学校生活の一助となるようなテーマの本を紹介するリストを作成し、図書館利用者や市内の中学校・高等学校に配布するとともに、各館でリスト掲載本の展示を行った。
- ・上越教育大学附属図書館及び新潟県立看護大学図書館と、各館の所蔵資料の有効活用及び利用促進を図るため、三者連携協力に関する協定を締結した。
- ・公民館図書室を通じた図書館の本の貸出・返却サービスや、図書館の本を一定期間展示・貸出しする巡回配置などを継続して実施した。

(4) 図書館利用者登録の推進

- ・9月の「健康増進普及月間」に合わせ、情報を得るため参考となる市立図書館所蔵資料を紹介した「生活習慣病ブックリスト」を作成し、上越地域医療センター病院や健康づくり推進課に設置するとともに、高田図書館で掲載資料の展示を行うことで、図書館資料の有効活用、登録・利用促進を図った。
- ・新小学1年生の入学準備期間に合わせて、図書館利用案内を配布し、登録の促進を図った。

○目標達成状況

読書活動推進事業の参加者数は5,284人となり、目標は達成できなかった。

障害者サービス事業 93

○令和3年度目標

視覚に障害がある方などに向けた資料の年間貸出しタイトル数：600タイトル

○実施内容、これまでの経過等

ボランティア団体との協働により、デージー図書（CD-ROM形式の録音図書）を新たに47タイトル作成し、所蔵資料の充実を図ることができた。

○目標達成状況

録音図書等の資料の年間貸出しタイトル数は553タイトルとなり、目標は達成できなかった。

【事業の成果】

- ・コロナ禍で催し物の実施に制限がかかる中、定例的に行っているおはなし会等はボランティア団体と協力し感染症対策を徹底することで、年間を通じて事業を実施することができた。
- ・コロナ禍により、学校との連携が大きく制限されたが、放課後児童クラブへの特別貸出しを令和2年度に引き続き実施し、19の放課後児童クラブへ延べ75回2,250冊の本を届けることで、児童に読書をする環境を提供することができた。
- ・市内の二つの大学図書館と連携協定を結んだことで、今後、それぞれの図書館が持つ特徴をいかした取組を進めていくための足掛かりができた。

決算書 (P 358～P 359)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・コロナ禍のため一部を縮小あるいは中止した催しがあったため、読書活動推進事業の参加者数は目標を達成できなかった。
- ・録音図書等の貸出しは、利用者の高齢化によって利用頻度が減少する傾向があり、目標を達成できなかったことから、引き続き録音図書のPRに努めていく。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、新しい生活様式を取り入れた感染症対策を整え、利用者が安全に参加できる事業を行う必要がある。

【執行残額について】

○その他 12

- ・報償金、消耗品費、通信運搬費

(単位：千円)

決算書 (P358～P359)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,745	15,701				214 (寄附金)	15,487
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	44				44	

【目的】

暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立つ様々な分野の図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供する。

令和3年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和3年度目標

高田図書館、浦川原分館及び頸城分館の利用数

図書貸出者数：124,200人

図書貸出冊数：500,000冊

○実施内容、これまでの経過等

・令和3年度受入冊数 8,164冊(購入：6,192冊、寄贈：1,972冊)

・令和3年度購入実績

区分	全体 ①+②	高田図書館①				分館②
		一般書		児童書		
		一般用	ティーンズ コーナー			
冊数(冊) (割合%)	6,192	5,623	4,009 (71.3)	170 (3.0)	1,444 (25.7)	569
金額	11,430	10,560	7,957	258	2,345	870

決算書 (P358～P359)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

・蔵書冊数（雑誌を除く） (単位：冊)

施設名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較
高田図書館	266,583	268,408	271,218	2,810
分館	36,761	36,920	37,220	300
合計	303,344	305,328	308,438	3,110

・貸出利用者数（団体を含む） (単位：人)

施設名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較
高田図書館	119,118	103,173	108,984	5,811
分館	10,168	9,278	10,783	1,505
合計	129,286	112,451	119,767	7,316

※団体も1人として集計

・貸出冊数(団体を含む) (単位：冊)

施設名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較
高田図書館	480,036	420,103	435,803	15,700
分館	34,785	30,735	33,811	3,076
合計	514,821	450,838	469,614	18,776

・コロナ禍でも安心して図書を借りられるよう、高田図書館に図書用除菌機を導入した。

○目標達成状況

貸出利用者数は119,767人、貸出冊数は469,614冊となり、目標は達成できなかった。

【事業の成果】

図書館として多様な分野の図書資料を各館で連携しながら収集するとともに、県内外の図書館から必要な図書資料の借用を積極的に行い、利用者に提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・令和2年度に比べいずれの数値も伸びたものの、新型コロナウイルス感染症の影響が続いていると見られ、貸出利用者数・冊数とも目標は達成できなかった。
- ・今後も図書資料の充実を図るとともに、図書の紹介方法を工夫しながら蔵書活用を図り、利用の増加に努めていく必要がある。

【執行残額について】

○その他 44

- ・通信運搬費、装備委託料ほか

(単位：千円)

決算書 (P358～P361)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書管理電算化事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
23,305	22,873					22,873
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	432	147		281	4	

【目的】

図書館サービスの正確化、迅速化を図るため、図書館システム及び端末を適切に維持管理する。

令和3年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和3年度目標

インターネットによる図書館資料予約処理件数：58,700件

○実施内容、これまでの経過等

・図書館システムの更新

令和4年1月末でリース期間が満了となったことから、図書館システムを更新した。あわせて、図書館ホームページの本のリクエストフォームを図書館システムと連動させることで入力項目を削減するなど利用しやすく改修し、図書館サービスの向上を図った。

・図書館システムの維持管理

図書館資料の貸出しや予約、リクエスト対応などのサービスに支障を来さないよう、図書館システムの適切な維持管理に努めた。

<インターネット予約処理件数>

(単位：件)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
54,001	56,854	63,461

○目標達成状況

インターネット予約処理件数は63,461件で、目標を上回った。

【事業の成果】

図書館ホームページを通じた予約、リクエストや返却期限の延長等ができる図書館システムの利便性をアピールしてきたところ、スマートフォンの普及も追い風となり、インターネット予約処理件数を伸ばすことができた。

決算書 (P 358～P 361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書館管理電算化事業		

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・ 図書館サービスに支障を来さないよう、引き続き図書館システムの適切な維持管理に努める。
- ・ 図書館ホームページのほか、図書館だより「パピルス」や市のホームページ、報道機関への情報提供など、今後もPRしたい情報の対象や内容に応じた発信方法を考えながら、図書館利用を広く市民に案内していく。

【執行残額について】

- 事業費節減 147
 - ・ 手数料（ホームページの暗号化通信導入証明書発行に係る経費を割引価格時に申し込んだことによるもの）
- 入札差金 281
 - ・ 使用料及び賃借料
- その他 4
 - ・ 消耗品費、通信運搬費

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
72,811	70,295				668 (使用料、財産収入、 諸収入)	69,627
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,516			392	2,124	

【目的】

市民の生涯学習活動の拠点施設として、高田図書館及び分館を適切に維持管理し、安全・安心な読書環境を提供する。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・主な維持管理費(施設関係)
 - 駐車場修繕(高田図書館) 1,221
 - 玄関庇漏水修繕(高田図書館) 290
 - 1階トイレ配管修繕(高田図書館) 143
 - 整理室照明修繕(高田図書館) 71
- ・車両の更新
 - 図書配送車の更新(諸経費含む) 1,333
- ・図書館資料の配送

直江津図書館、浦川原分館、頸城分館及び公民館図書室を定期的に巡回し、高田図書館を起点に直江津図書館へは週6回、分館へは週3回、公民館図書室へは週1～2回、図書館資料の配送を行った。

○施設の管理実績

・利用者数

(単位：人)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
			計画	実績
入館者数(高田図書館のみ)	231,738	161,827		173,291
図書貸出利用者数(分館を含む)	129,286	112,451	124,200	119,767

※入館者数には小川未明文学館利用者と、観桜会会期中の利用者を含む。

決算書 (P360～P361)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	50	33	57	47
	その他	32,466	2,799	500	621
	合計	32,516	2,832	557	668
②支出	施設維持管理費	31,785	28,633	29,685	28,937
	うち委託料	13,445	13,473	14,910	13,851
	その他	105,877	39,880	43,126	41,358
	合計	137,662	68,513	72,811	70,295
③公費投入額 (②-①)		105,146	65,681	72,254	69,627
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		813	584	582	581

※④利用者は、高田図書館、分館の図書貸出利用者

【事業の成果】

高田図書館の快適な利用の環境を整えるため、駐車場の区画線の引き直しを行うとともに構造物を撤去したほか、玄関庇漏水修繕や空調設備の機器部品交換等を行い、施設の長寿命化及び設備の安定化を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・高田図書館は平成6年に開館して28年が経過し、昇降機、消防設備等の諸設備及び建築物の老朽化が進んでいることから、利用者の安全確保と快適な読書環境の提供及び施設の長寿命化を図るため、引き続き優先順位を定めて修繕を実施していく。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を引き続き講じながら、利用者が安全・安心に利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 392
 - ・委託料 392
- その他 2,124
 - ・共済費、報酬等 1,348 (現業会計年度任用職員の勤務実績による)
 - ・光熱水費 402
 - ・使用料及び賃借料ほか 374

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,767	5,755				84 (寄附金)	5,671
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	12				12	

【目的】

市民の多様な目的に応じた学習活動の拠点として、あらゆる分野の図書資料を収集・保存し、広く市民に提供することで、暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立ててもらおう。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和3年度目標

直江津図書館利用数

- ・ 図書及び視聴覚資料貸出者数：79,800人
- ・ 図書及び視聴覚資料貸出点数：290,000点

○実施内容、これまでの経過等

- ・ 令和3年度受入冊数 3,045冊 (購入：2,655冊、寄贈：390冊)
- ・ 令和3年度購入実績

区分	直江津図書館				
		一般書			児童書
		一般用	鉄道図書 コーナー	ティーンズ コーナー	
冊数(冊) (割合%)	2,655	1,595 (60.1)	110 (4.1)	247 (9.3)	703 (26.5)
金額	4,460	2,784	210	329	1,137

・蔵書冊数(雑誌を除く)

(単位：冊)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較
	冊数	150,046	151,872	

決算書 (P360～P361)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

・貸出利用者数 (団体を含む) (単位：人)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	76,890	66,952	76,611	9,659
	視聴覚資料	5,347	3,548	3,696	148
合計		82,237	70,500	80,307	9,807

※団体も1人として集計

・貸出点数 (団体を含む) (単位：点)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	289,972	262,418	294,239	31,821
	視聴覚資料	8,697	6,167	6,322	155
合計		298,669	268,585	300,561	31,976

○目標達成状況

貸出利用者数は80,307人、貸出点数は300,561点となり、貸出利用者数及び貸出点数とも目標を達成できた。

【事業の成果】

収集した図書等を活用し、コロナ禍においても催しや本の展示などを行い、また、直江津地区公民館などと連携し、関連する本の貸出しを行うなど、様々な本との出会いを提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

図書館の利用は徐々に戻りつつあるため、コロナ禍においても催しや本の展示などを工夫して行うとともに、資料の充実を図ることによって利用の増加に努めていく。

【執行残額について】

○その他 12

・図書装備委託料ほか

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
85,795	83,835				3,390 (使用料、財産収入、 諸収入)	80,445
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,960			132	1,828	

【目的】

市民の生涯学習活動や文化活動の支援を行うとともに、情報提供の場としての直江津学びの交流館・直江津図書館の適切な管理、運営を図る。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 3 年度目標

- ・施設の安全安心を維持しながら、集会や各種講座、音楽、スポーツ、読書等、利用者がより快適に活動できる場の提供に努める。
- ・入館者数：226,000 人

○実施内容、これまでの経過等

・利用実績

開館日数：347 日

部屋別	令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	利用件数 (件)	稼働率※ (%)	利用件数 (件)	稼働率※ (%)	利用件数 (件)	稼働率※ (%)
イベントホール	518	49.6	311	32.5	521	50.0
音楽室	587	56.2	339	35.4	508	48.8
小集会室	675	64.7	400	41.8	513	49.3
多目的ホールA	468	44.8	246	25.7	357	34.3
多目的ホールB	367	35.2	133	13.9	211	20.3
多目的ホールC	405	38.8	275	28.7	382	36.7
合計	3,020	48.2	1,704	29.7	2,492	39.9
貸館利用者数 (人)	36,178		18,779		24,887	

※稼働率：1日のうち、午前・午後・夜間、全て利用された場合を100%とし、1回の利用を33.3%とする。

決算書 (P360～P361)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

○施設の利用実績

・利用者数

(単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
			計 画	実 績
入館者数	242,455	175,419	226,000	199,635

・施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予 算	実 績
①収 入	使用料収入	3,776	2,334	3,300	2,781
	その他	526	599	682	609
	合計	4,302	2,933	3,982	3,390
②支 出	施設維持管理費	27,589	25,850	27,588	26,041
	うち委託料	11,388	11,493	11,500	11,493
	その他	28,774	33,008	36,447	36,034
	合計	56,363	58,858	64,035	62,075
③公費投入額 (②-①)		52,061	55,925	60,053	58,685
④入館者1人当たりの 公費投入額 (単位：円)		215	319	266	294
令和3年度 共益費負担金 (空調設備更新工事費)				21,760	21,760
上記費用を含む支出合計				85,795	83,835

※ ホテルと共用する空調設備について、故障に伴い全面更新するための工事費分

○目標達成状況

入館者数は199,635人となり、目標は達成できなかった。

【事業の成果】

コロナ禍ではあったが、様々な市民活動や学びの場として安心して利用いただけるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、施設管理を行った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

感染症対策をしっかりと行い、安心して利用できる施設であることをPRしながら、図書館だけでなく、各種集会や研修会などの会場として市内外から利用してもらえるよう取り組んでいく。

【執行残額について】

○入札差金 132

・営繕修繕料

○その他 1,828

・報酬、営繕修繕料、共益費負担金ほか

(単位：千円)

決算書 (P362～P363)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
38,207	36,041				5,670 (使用料、財源収入 譲収入)	30,371
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,166				2,166	

【目的】

当市の歴史・民俗等について調査研究し、その成果を展覧会や図録等の刊行物で市民に紹介するとともに、安全で快適な施設の維持管理を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

企画展開催事業 8,760

○令和3年度目標

- ・高田城跡という立地をいかし、地域の文化財等を活用して常設展示及び企画展等の事業を実施することで、地域の歴史学習の拠点として多くの市民や観光客が持続的に集う魅力ある施設とする。
- ・特別展「上越のみほとけ—『越後の都』の祈り—」を開催することにより、市民が貴重な文化財を観覧する機会とする。
- ・入館者数：74,300 人
(平成30年度：41,134 人〈7月21日オープン〉、令和元年度：82,741 人、令和2年度：45,558 人)
- ・スキー資料を適切に管理するため、資料の台帳化を進める。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 企画展の開催

展覧会名	会期	内容	入館者数 (うち展覧会 観覧者数)
逸品展示 「新収蔵品展」	4/1～ 6/13	堀秀治書状や昭和の観桜会ポスター等、高田図書館からの移管資料を紹介した。	19,839 人 (3,264 人)
企画展 「日本スキー発祥 110 年記念 レルヒ少佐と高田の友人たち」	7/10～ 9/5	レルヒと高田の人々の交流の様子から、スキー指導だけにとどまらないレルヒの人柄や側面を紹介した。	9,742 人 (2,090 人)

決算書 (P362～P363)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

展覧会名	会期	内 容	入館者数 (うち展覧会 観覧者数)
特別展 「上越のみほとけ―「越後の都」の祈り―」	10/9～ 11/21	市内の重要文化財を始めとする仏像・懸仏の優品を一堂に会し、繁栄した「越後の都」の文化を紹介した。	15,282人 (6,808人)
企画展 「探検！むかしの暮らし」	1/4～ 3/13	昭和のくらしの道具を中心に、身の回りの生活の移り変わりを紹介した。	5,547人 (2,121人)
展覧会期間中の入館者数合計…(a)			50,410人 (14,283人)
常設展示のみの期間の入館者数…(b)			10,765人 (2,031人)
令和3年度の総入館者数(4/1～3/31) …(a)+(b)			61,175人 (16,314人)

(2) 教育・普及事業

事業名	内 容	開催日	参加者数
講演会	特別展「上越のみほとけ―「越後の都」の祈り―」 記念講演会 講師：川村知行氏（上越教育大学名誉教授） 演題：「上越の仏像 謎を楽しむ」 会場：リージョンプラザ上越 コンサートホール	10/16	120人
展示解説会	企画展「日本スキー発祥110年記念 レルヒ少佐と高田の友人たち」	7/17、 8/7	延べ34人
	特別展「上越のみほとけ―「越後の都」の祈り―」	10/23、 11/6	延べ134人
	学び愛フェスタ関連イベント 特別展「上越のみほとけ」子ども向け展示解説会	11/20	69人
	企画展「探検！むかしの暮らし」 ※小学校3年生の授業に対応	会期中	29校(28校) 990人(954人) ※()は市内
	常設展示「越後の都」 ※新型コロナウイルス感染防止対策として、解説は市内団体に限定して実施	通年	17件451人
	岡沢拠点収蔵施設一般公開	8/10、 8/11	延べ127人
出前講座・職員派遣	歴史に関する講演・講座等 ※公民館事業や町内会などからの依頼に対応	—	17回776人

決算書 (P362～P363)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

事業名	内 容
刊行物の 発行	名称：『特別展 上越のみほとけ―「越後の都」の祈り―』 展覧会図録 規格：A4 判変形 64 ページ 部数：1,000 部
	名称：『企画展 探検！むかしのくらし』 探検ブック ※小学生用ワークシート 規格：A5 判 16 ページ 部数：2,000 部
	名称：『上越市立歴史博物館 年報・紀要 第 2 号』（デジタル版） ※歴史博物館ホームページ上で公開 規格：A4 判 60 ページ

(3) 調査・研究事業及び資料管理事業

日本スキー発祥記念館で所蔵するスキー資料の整理・台帳化を進め、黎明期の資料 297 点を市文化財に指定した。また、歴史・民俗資料の調査・収集、歴史資料や参考図書の購入を行った。

○目標達成状況

入館者数は 61,175 人となり、目標を達成することができなかった。

民俗資料整理事業 120

○実施内容、これまでの経過等

平成 29 年度以降の新規寄贈資料の台帳化作業を継続して行うとともに、資料の適正管理に努めた。

施設の維持管理 27,161

○実施内容

歴史博物館、岡沢拠点収蔵施設の維持管理を適正に実施した。

○施設の管理実績

・利用者数等

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	
			計 画	実 績
入館者数	82,741 人	45,558 人	74,300 人	61,175 人

決算書 (P362～P363)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予算	実績
① 収入	使用料収入	5,176	3,370	4,631	4,977
	その他	104	100	208	693
	合計	5,280	3,470	4,839	5,670
② 支出	施設維持管理費	26,025	25,735	28,626	27,162
	うち委託料	12,858	13,079	14,348	13,714
	その他	5,258	6,399	9,581	8,879
	合計	31,283	32,134	38,207	36,041
③ 公費投入額 (②-①)		26,003	28,664	33,368	30,371
④ 利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		314	629	449	496

【事業の成果】

- ・特別展「上越のみほとけ―「越後の都」の祈り―」では、市内の文化財の中から重要文化財3点を始めとする仏像・懸仏の優品を一堂に会し、「越後の都」として栄えた上越の歴史・文化を紹介した。
- ・企画展「レルヒ少佐と高田の友人たち」では、日本スキー発祥110年を記念して、レルヒと日本の友人たちとの交流から、スキー指導にとどまらないレルヒの人柄や側面を紹介した。
- ・時機を得た展覧会の開催によって、市民が地域の歴史や文化に触れる機会を提供し、郷土の歴史・文化への理解を深めることができた。
- ・国重要有形民俗文化財の「どぶね」のほか約3万点の民俗資料を収蔵する岡沢拠点収蔵施設の一般公開を行うことで、児童のほか広く市民から鑑賞していただく機会を提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、年間を通じ新型コロナウイルス感染症の影響が続いたことによる。
- ・引き続き、施設の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。
- ・収蔵資料や市内の歴史に関する研究を深め、新たな知見の蓄積に努めていくとともに、その成果を市民に還元するため、論文発表や講座・展覧会を実施していく。

【執行残額について】

○その他 2,166

・報酬、社会保険料、報償費	415
・費用弁償、普通旅費	223
・消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費、光熱水費、修繕料	466
・通信運搬費、手数料	203
・委託料	649
・使用料、借上料	198
・図書購入費	2
・負担金	10

(単位：千円)

決算書 (P362～P365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
54,803	54,701				7,235 (使用料、謝収)	47,466
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	102			33	69	

【目的】

小林古径及び当市ゆかりの美術作家の作品を収集、保管、展示し、あわせてこれらの作品等に関する調査研究を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

企画展開催事業 23,708

○令和 3 年度目標

入館者数：25,000 人

○実施内容、これまでの経過等

・展覧会開催事業

展覧会名	会期	内 容	入館者数
古径と院展の作家たち	4/1～ 6/20	当館所蔵品を中心として、小林古径作品のほか、横山大観や安田靉彦など、日本美術院展で活躍した日本画家たちの作品を紹介した。	3,257 人
生誕 90 年 岩野勇三彫刻展	7/3～ 9/20	当市出身の彫刻家・岩野勇三の生誕 90 年を記念して初期から晩年までの作品を高田城址公園内の岩野勇三ブロンズコーナーの作品とあわせて紹介した。	2,312 人
開館 1 周年記念 永青文庫所蔵近代 日本画名品展	10/2～ 11/23	東京・永青文庫所蔵品の中から古径の代表作である《髪》(重要文化財)や《孔雀》を始め、横山大観や下村観山などの近代日本画の名品を紹介した。	8,195 人
上越市美術展覧会 第 50 回記念企画 特別展	12/4～ 12/26	上越市展 50 回を記念して優秀作品 12 点を展示した。あわせて 50 年の歴史と伝統を振り返る写真パネルや資料なども紹介した。(主管課：社会教育課)	1,207 人

決算書 (P362～P365)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

展覧会名	会期	内 容	入館者数
コレクション展 白の世界	1/4～ 3/21	当館所蔵品の中から、齋藤三郎（陶芸）、濱谷浩（写真）、富岡惣一郎（油彩）、柴田長俊（日本画）など、雪や白色にちなんだ作品を紹介した。	1,291

・展覧会関連事業

展覧会名	事業名	参加者数
古径と院展 の作家	学芸員によるギャラリートーク	35
	映像で偲ぶ古径忌	15
	学芸員とめぐる古径邸・庭園ツアー	35
	学芸員といっしょに！みんなで「きっず★アートチャレンジ」	10
岩野勇三展	勇三のふるさと・大島区さとがえり展（館外展示）	227
	学芸員によるギャラリートーク（※公園内彫刻作品含む）	29
	岩野勇三映像放映会	46
	座談会「彫刻の魅力を語ろう」	20
	ブロンズコーナー彫刻清掃&鑑賞会	14
	子ども講座「彫刻ってナンだ？作品作りにちょうせん！」	9
永青文庫展	学芸員によるギャラリートーク	75
	秋の美術館コンサート「ハープで奏でるジャズと映画音楽」	78
	作品を見て秋の和菓子をつくろう	32
	記念講演会	41
	日本画鑑賞と魯山人の器で楽しむ特別懐石料理	54
	庭園紅葉ライトアップ	252
通年	どようワークショップ（全29回）	175
	よちよちタイム（全40回）	176
	こどものための美術館ガイド「きっず★アートチャレンジ」	356

※「白の世界」関連イベントについては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止した。

・出張授業及び団体見学対応

区分	件数	人数
出張授業	新道地区公民館、北諏訪地区公民館、宝田小学校、稲田小学校、柿崎中学校、高田特別支援学校高等部（2回） 合計7件	193
団体見学対応	団体旅行、市内公民館、市内・市外の小中高等学校、新潟県博物館協議会など 合計46件	1,444

決算書 (P 362～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

・刊行物の発行

種類	冊子名	規格
図録	生誕 90 年岩野勇三彫刻展	A5 版、64 頁
	永青文庫所蔵近代日本画名品展	A5 版、112 頁
	生誕 100 年富岡惣一郎所蔵作品集	A5 版、80 頁
	生誕 100 年斎藤真一展（令和 4 年度）	A5 版、80 頁

○目標達成状況

入館者数は 16,583 人となり、目標を達成できなかった。

施設の維持管理 30,993

○実施内容

- ・小林古径記念美術館、小林古径邸・画室及び庭園の維持管理を適正に実施した。
- ・所蔵作品を適正に保管管理した。

○施設の管理実績

- ・利用者数等

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	
			予 算	実 績
入館者数	-	10,790 人	25,000 人	16,583 人

※平成 30 年度及び令和元年度は、増改築工事に伴う休館のため、入館者実績なし

・施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料	-	3,019	9,646	5,882
	その他	-	381	1,737	1,353
	合計	-	3,400	11,383	7,235
②支出	施設維持管理費	4,610	24,804	31,090	30,993
	うち委託料	326	14,952	21,707	21,674
	その他	130	4,249	23,713	23,708
	合計	4,740	29,053	54,803	54,701
③公費投入額（②－①）		4,740	25,653	43,420	47,466
④利用者 1 人当たりの公費投入額（単位：円）		-	2,377	1,737	2,862

※令和元年度は、増改築工事に伴う休館のため、使用料収入なし

決算書 (P 362～P 365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

【事業の成果】

- ・開館 1 周年記念展のほか合計 4 回の企画展を開催し、古径を始めとする当市ゆかりの作家の作品を紹介し、市民が芸術文化に触れる機会を提供することができた。
- ・展覧会関連イベントの開催をとおして作品を見るだけでなく体験できるような事業を実施し、市民が気軽に美術に親しめる機会を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、年間を通じ新型コロナウイルス感染症の影響が続いたことによる。
- ・引き続き、施設の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行いながら市民の芸術鑑賞の場を提供し、入館者数の増加を図る。
- ・古径を始めとする当市ゆかりの作家の調査を進めていくとともに、絵画や彫刻、工芸など多彩な分野の作品を紹介していく。

【執行残額について】

○入札差金	33	
・委託料		
○その他	69	
・報償費		1
・費用弁償、普通旅費		2
・消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費、光熱水費		33
・通信運搬費、広告費、手数料、保険料		3
・委託料		1
・使用料		28
・備品購入費		1



「生誕 90 年岩野勇三彫刻展」
展示風景



「永青文庫所蔵近代日本画名品展」
展示風景

(単位：千円)

決算書 (P364～P365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,986	1,953				29 (使用料)	1,924
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	33				33	

【目的】

牧歴史民俗資料館が収蔵する国史跡「宮口古墳群」の出土品（新潟県指定有形文化財）を始め、水科古墳群及び菅原古墳からの出土品並びに油田関係資料を含む民俗資料を適正に保管し、展示する。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和3年度目標

- ・出土品のほか、貴重な民俗資料を展示している施設の特徴をいかし、小学校等の校外学習や公民館講座等での利用を促進し、入館者数の維持を図る。
- ・入館者数：600人

○実施内容、これまでの経過等

- ・「宮口、水科、菅原古墳群」の出土品や民俗資料を適正に保管し、入館者が快適に施設を利用できるように維持管理を行う。
- ・開館期間 4月～11月
- ・開館時間 土曜日・日曜日・休日の午前9時～午後4時
※平日は希望見学(牧区総合事務所で鍵を管理)

○施設の管理実績

- ・利用者数等

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
			計画	実績
入館者数	656人	329人	600人	373人

決算書 (P364～P365)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	77	27	70	29
	その他	-	-	-	-
	合計	77	27	70	29
②支出	施設維持管理費	2,026	2,017	1,986	1,953
	うち委託料	314	317	317	317
	その他	-	-	-	-
	合計	2,026	2,017	1,986	1,953
③公費投入額 (②-①)		1,949	1,990	1,916	1,924
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		2,971	6,049	3,193	5,158

○目標達成状況

入館者数は373人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

市内小学校の総合的な学習の時間や公民館講座などにおいて、古墳時代の地域の歴史や、明治時代の石油産業等について学習する場を提供できた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、年間を通じ新型コロナウイルス感染症の影響が続いたことによる。
- ・引き続き、施設の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。
- ・施設設置から30年以上が経過しており、設備改修など計画的な修繕が必要である。

【執行残額について】

○その他	33
・報酬	3
・費用弁償	2
・消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料	21
・通信運搬費、手数料	5
・委託料	1
・使用料	1

(単位：千円)

決算書 (P364～P365)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,968	4,924				552 (使用料)	4,372
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	44			8	36	

【目的】

日本におけるスキー発祥地として、スキーの歴史的変遷に関する資料等を保存・展示することにより、郷土に対する市民の認識を深めるとともに、教育、学術の発展に寄与する。

令和3年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和3年度目標

- ・歴史博物館で開催するスキー発祥110年企画展と連携して施設のPRに努めるとともに、小中学校の施設利用学習に供することで、入館者数を維持する。
- ・入館者数：2,900人

○実施内容、これまでの経過等

- ・収蔵するスキー資料の再整理計画に従い、令和3年度は日本スキー黎明期に関する資料整理を進めた。
- ・金谷山スキー場営業期間中に、スキー場リフト利用者に対して入館料の割引措置を実施した。一方、大型連休・夏休み期間中に例年実施している金谷山スーパーボブスレー利用者に対する入館料の割引は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とした。
(割引利用者 令和元年度：87人、令和2年度：10人、令和3年度：6人)
- ・リリエンフェルト姉妹都市提携40周年、東京2020オリンピック開催に合わせ、他部署と連携し、各記念事業の一部として、広く周知を図った。また、日本スキー発祥110年に当たり、歴史博物館で開催した企画展の成果を日本スキー発祥記念館の展示内容へと反映した。

○施設の管理実績

- ・利用者数等

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
			計画	実績
入館者数	2,984人	1,404人	2,900人	1,755人

決算書 (P364～P365)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
				予算	実績
① 収入	使用料収入	315	257	508	552
	その他	-	900	-	-
	合計	315	1,157	508	552
② 支出	施設維持管理費	4,904	5,423	4,912	4,872
	うち委託料	2,831	2,813	2,894	2,862
	その他	151	141	56	52
	合計	5,055	5,564	4,968	4,924
③ 公費投入額 (②-①)	4,740	4,407	4,460	4,372	
④ 利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)	1,588	3,139	1,538	2,491	

○目標達成状況

入館者数は1,755人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

日本スキー発祥の歴史・文化を学ぶことができる場を提供し、郷土に対する理解を深めるとともに、郷土への愛着の醸成に寄与した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、年間を通じ新型コロナウイルス感染症の影響が続いたことによる。日本スキー発祥記念館を会場とする事業が中止となったことや、スキーの日のレルヒ少佐顕彰会が中止となったこと、さらには、レルヒ祭が規模を縮小しての開催となったことにより、昨年度に引き続き無料入館者数が大きく減少することとなった。
- ・収蔵するスキー資料の再整理事業を計画的に進めていく。
- ・引き続き、施設の新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。

【執行残額について】

○入札差金 8

- ・印刷製本費 1
- ・委託料 7

○その他 36

- ・消耗品費、光熱水費、修繕料 6
- ・通信運搬費、手数料 5
- ・委託料 25

(単位：千円)

決算書 (P364～P365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	高田城三重櫓管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
9,880	9,017				4,149 (使用料、財源収入、 諸収入)	4,868
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	863				863	

【目的】

高田城址公園を象徴する施設として適切な維持管理を行うとともに、歴史博物館と連携して高田城の歴史や価値を広く周知し、教育、学術の発展に寄与する。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和 3 年度目標

- ・高田城址公園の象徴として多くの市民や観光客が持続的に集う魅力ある施設とする。
- ・年間入館者数 29,000 人

○実施内容、これまでの経過等

- ・観桜会等のイベント期間にライトアップを実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止について注意喚起するための着色点灯を行った。
- ・施設の維持管理として、電話用配線や管理棟マンホールポンプ更新の修繕などを行った。

○施設の管理実績

- ・利用者数等

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	
			計画	実績
入館者数	32,437 人	12,472 人	29,000 人	16,865 人

決算書 (P364～P365)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	高田城三重櫓管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	7,642	3,038	7,116	4,112
	その他	105	76	96	37
	合計	7,747	3,114	7,212	4,149
②支出	施設維持管理費	9,600	10,224	9,880	9,017
	うち委託料	6,506	7,341	6,749	6,349
	その他	50	50	0	0
	合計	9,650	10,274	9,880	9,017
③公費投入額 (②－①)		1,903	7,160	2,668	4,868
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)		59	574	92	289

○目標達成状況

入館者数は 16,865 人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

歴史博物館とは異なる視点から高田城を学ぶことができるよう展示内容を特化することで、両施設の利用促進を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数目標を達成できなかった主な要因は、年間を通じ新型コロナウイルス感染症の影響が続いたことによる。特に観桜会の縮小開催による入館者数の減少が大きい。
(観桜会期間入館者 令和元年度：11,620 人、令和 2 年度：1,005 人、令和 3 年度：3,274 人)
- ・引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な管理運営を行う。

【執行残額について】

○その他 863

- ・消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料 411
- ・通信運搬費 24
- ・委託料 400
- ・使用料 28

(単位：千円)

決算書 (P364～P365)	10 款 5 項 5 目 水族博物館費	所管課等	教育総務課
事業名	水族博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
245,327	212,422				195,848 (譲収入等)	16,574
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	32,905	32,790		108	7	

【目的】

市民の教育、学術及び文化の向上を図るための学びの場として、さらには、内外から大勢が集う楽しみの場、憩いの場として水生生物の飼育展示や教育プログラムを実施するとともに、入館者の安全確保を図るため、施設の適切な維持管理を行う。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和3年度目標

コロナ禍における施設利用の安全性の確保、展示の質や効果の向上など、入館者の動向やニーズ、施設の現状を踏まえた取組を実施するとともに、鯨類の飼育環境検証結果を踏まえ必要な措置を講ずる。

○実施内容、これまでの経過等

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための様々な対策を実施するとともに、感染症対策のために制約が生じる中、繁忙期における入館予約システムの導入やイルカパフォーマンス観覧希望者への整理券配布により、入館者の安全確保と利便性向上を図った。
- ・SNSやインターネットを活用した情報発信に注力し集客を図った。
- ・特定のテーマを設定し、月単位で展示替えを行うマンスリー水槽の新設や内照式解説板の設置など、展示の充実を図った。
- ・出張授業やオンライン形式のバックヤードツアーなど、コロナ禍に対応した教育プログラムを実施し、学習機会の確保を図った。
- ・鯨類の飼育環境の検証結果を踏まえ、イルカプール及びふれんどプールの日除け設置、イルカプールの防風壁設置を実施したほか、飼育展示管理の更なる充実を図った。

○施設の管理実績

- ・利用者数等

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
			計画	実績
入館者数	514,946人	206,227人	348,000人	245,080人

決算書 (P364～P365)	10款5項5目 水族博物館費	所管課等	教育総務課
事業名	水族博物館管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
		実績	実績	予算	実績
①収入		-	-	-	-
②支出	施設管理運営業務委託料	-	-	176,957	144,167
	委託料	-	1,881	1,978	1,870
	修繕料	0	264	6,934	6,934
	新型コロナウイルス減収補填金※	-	161,258	7,574	7,574
	その他 (土地借上料、備品購入費等)	6,706	32,552	51,691	51,690
合 計		6,706	195,955	245,134	212,235
③公費投入額 (②-①)		6,706	195,955	245,134	212,235
④入館者1人当たりの公費投入額(単位:円)		13	950	704	866

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの。令和3年度は、県の特別警報発令期間中の臨時休館に伴う減収分を補填金として支出し、別途、施設管理運営業務委託料を支出した。

○指定管理者の収支状況等(税抜)

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
		実績	実績	計画	実績
①収入	利用料金収入	635,183	250,330	427,044	291,339
	施設管理運営業務委託料	-	-	-	131,061
	新型コロナウイルス減収補填金※	-	161,258	-	7,574
	その他	2,341	9,002	1,458	805
②支出		525,255	420,590	503,680	430,779
差引(①-②)		112,269	0	△75,178	0

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填したもの。令和3年度は、県の特別警報発令期間中の臨時休館に伴う減収分を補填金として支出し、別途、施設管理運営業務委託料を支出した。

決算書 (P364～P365)	10款5項5目 水族博物館費	所管課等	教育総務課
事業名	水族博物館管理運営費		

○目標達成状況

- ・新型コロナウイルス感染症対策の実施により、安全・安心な施設利用を確保した。
- ・出張授業やオンライン形式のバックヤードツアーの実施により、コロナ禍においても教育普及を進めることができた。
- ・マンスリー水槽の新設や内照式解説板の設置などにより、展示の質や効果の更なる向上を図ることができた。
- ・鯨類の飼育環境の検証結果を踏まえた対応を進めることにより、鯨類の飼育環境の向上を図ることができた。

【事業の成果】

指定管理者の知見や技術をいかした管理運営の下、テーマである日本海に生息する水生生物、マゼランペンギンや鯨類の常設展示のほか、出張授業やオンライン形式のバックヤードツアーなど、コロナ禍に対応した教育プログラムを実施することにより、幅広い範囲の方々の興味や学習ニーズに応えた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・水生生物を通じた学びの場、交流の場として、市民を始めとする多くの方々の持続的な利用を確保するために、コロナ禍に応じた展示や教育プログラムの実施、施設の適切な管理運営を進めていく。
- ・鯨類飼育環境検証結果を踏まえた対応を着実に実施し、鯨類の安定的な飼育体制を構築していく。

【水族博物館整備運営基金残高について】

令和2年度末残高	令和3年度増減額	令和3年度末残高	増減額内訳
350,997,227円	△195,613,961円	155,383,266円	<u>増額（積立）分 127,039円</u> 寄附金 120,000円 基金運用利子 7,039円 <u>減額（繰入）分 △195,741,000円</u> 工事請負費 44,000,000円 休館に伴う補填金 7,574,000円 指定管理減収補填金 144,167,000円

※令和2年度末残高、令和3年度増減額及び令和3年度末残高出納整理期間中の増減を含む。

【執行残額について】

- 事業費節減 32,790
 - ・委託料のうち施設管理運營業務委託料
- 入札差金 108
 - ・委託料のうち展示物等作成業務委託料
- その他 7
 - ・旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料 3
 - ・積立金 4

(単位：千円)

決算書 (P364～P367)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史文化推進費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,452	7,670				1,992 (譲入)	5,678
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	782		176		606	

【目的】

- ・ 県内最多を誇る 371 件の指定文化財の保存・伝承に努めるとともに、新たな文化財の指定を行うことにより、適切な保護を図り、活用を促進する。
- ・ 「地域の宝」認定制度の運用により、有形・無形、文化財の指定・未指定に関わらず、地域住民が大切に守り伝え、よりどころとする文化財の次世代への継承を図るとともに、魅力ある地域づくりの一助とする。
- ・ フォーラム等の開催や北前船日本遺産推進協議会の活動等を通じて関係自治体等との交流を図りながら、日本遺産の認定を受けた北前船寄港地としての歴史や文化を更に周知し、市民の郷土への誇りと愛着の醸成を図る。

令和 3 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・ 文化財調査審議会の開催 (3 回)
- ・ 上越市文化財の指定 (2 件)
- ・ 文化財等の管理委託 (史跡の草刈りや遊歩道整備等)
直峰城跡、宮口・水科古墳群ほか
- ・ 無形民俗文化財保存事業への補助
米大舟、西横山小正月行事、飯室神楽、井ノ口古代詞
- ・ 指定文化財保存管理事業への補助
浄興寺本堂、お諏訪さんの大ケヤキ、木造十一面千手観音坐像、林富永邸ほか
- ・ 文化財看板の修繕等
直峰城跡、黒井宿、犀浜の製塩、鳥追い (撤去)
- ・ 「地域の宝」認定制度の運用
令和 3 年度 26 件認定
- ・ 御城印の頒布
春日山城、高田城
- ・ 日本遺産北前船の周知
北前船フォーラム (7/10 実施)、まちあるき、市内各施設における展示、小中学校の総合学習、北前船日本遺産推進協議会事業 ほか

決算書 (P364～P367)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史文化推進費		

【事業の成果】

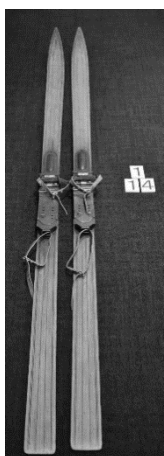
- ・「日本スキー関係資料」と「一本杖スキー術」の2件を新たに上越市文化財に指定した。
- ・令和2年度に認定した「地域の宝」60件に加え、新たに26件を認定することで、文化財を保存・活用する活動が活性化されるとともに、子どもたちの参画等が促進され、地域への誇りや愛着の醸成に寄与した。
- ・指定文化財及び上越市「地域の宝」等について、保存・活用に必要な助言や情報発信などにより、次世代への継承の下支えを行った。
- ・春日山城跡、高田城跡の魅力を発信する事業の一つとして御城印を頒布することで、城跡への来城と市内周遊を促進した。(通常版：通年、城跡の記念日等に頒布する特別版：年5回)
- ・日本遺産の認定を受けた北前船寄港地として、北前船フォーラムの開催、まちあるき、市内各施設における展示、小中学校の総合的な学習の時間、市民団体主催の講演会への講師派遣等により、歴史や文化を広く市民に周知した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・文化財標柱、説明看板等について、維持管理方針に基づき、必要な修繕、撤去を進める。
- ・上越市「地域の宝」認定制度の運用を進め、「地域の宝」の次世代への継承を下支えする。

【執行残額について】

○事業未実施	176	
・負担金		32
・補助金		144
○その他	606	
・報酬、職員手当、社会保険料、報償金		240
・費用弁償、普通旅費		214
・印刷製本費、光熱水費、修繕料		23
・通信運搬費、手数料		11
・使用料、借上料		118



上越市文化財「日本スキー関係資料」
オーストリア式スキー板とレルヒ少佐のアルバム



北前船フォーラムの様子
上越市「地域の宝」の直江津舟方節の発表